

経営比較分析表（平成28年度決算）

岐阜県 高山市

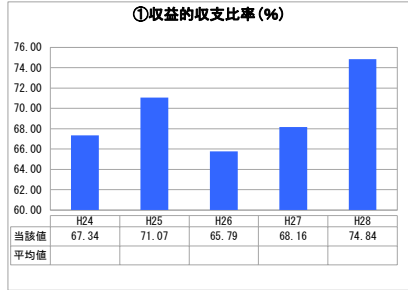
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	15.04	81.84	2,808

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
89,913	2,177.61	41.29
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
13,423	5.37	2,499.63

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



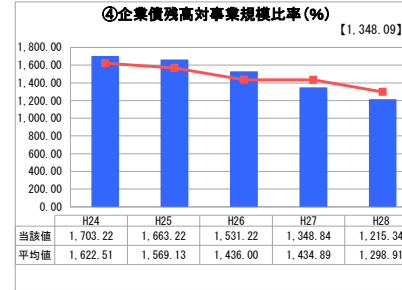
「単年度の収支」



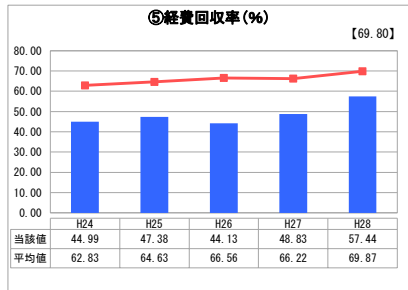
「累積欠損」



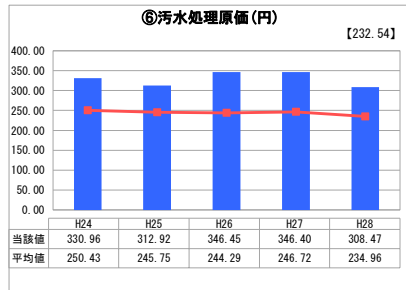
「支払能力」



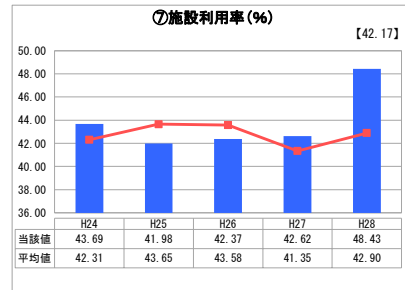
「債務残高」



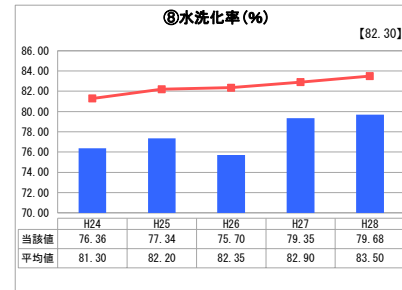
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

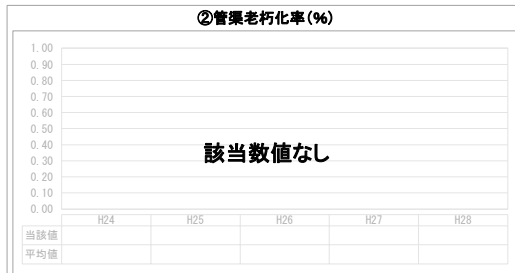


「使用料対象の捕捉」

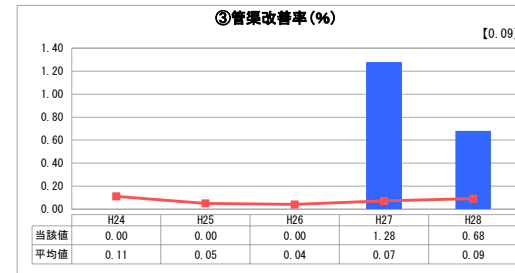
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

区域が広く山間という地理的要因により分散処理区となっており、10の処理施設を管理している。計画処理区域内の整備は、一部地区の管きよ整備を除きほぼ完了済であるが、人口減少や高齢化等により、処理水量は減少傾向にある。地理的要因により建設費が高んだこと（高資本費）から、汚水処理原価は類似団体よりやや高く推移している。企業債の残高は減少していくものの依然として高い水準あり、維持管理費は横ばいで推移している。管きよ整備は、事前に接続同意を得る手法で整備コストを検討し事業を進めている。継続して水洗化の促進、下水道料金の収納確保、経費の節減等に取組んでいる。

2. 老朽化の状況について

供用開始が最も早い処理区でも平成2年であるため、管渠の更新は必要ない。設備は、長寿命化計画を策定し、設備の状況に応じた更新及び修繕を実施している。

全体総括

下水道整備5か年計画に基づき、事業費の低減と平準化及び投資と財源の均衡化を図りながら経営している。社会情勢等の変化による影響を注視しつつ、将来計画の検証や検討を進める。効率性の高い処理形態への構築に向け、処理区域再編整備（既存施設の処理能力を活かした統廃合）を進める。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。